

中野区ゼロカーボンシティ宣言及びパブリック・コメント手続の実施結果について

中野区ゼロカーボンシティ宣言(案)に対するパブリック・コメント手続の結果を踏まえ、中野区ゼロカーボンシティ宣言について以下のとおり報告する。

1 パブリック・コメント手続の実施結果について

(1) 意見募集期間

令和3年8月12日(木曜日)～9月1日(水曜日)

(2) 意見提出者数

5人(電子メール4人、窓口1人)

2 提出された意見の概要及びそれに対する区の考え方
別紙1のとおり

3 提出された意見等により変更した箇所
なし

4 中野区ゼロカーボンシティ宣言の内容
別紙2のとおり

5 今後の予定

令和3年10月上旬	パブリック・コメント手続の実施結果及び宣言(案)の公表
10月下旬	中野区ゼロカーボンシティ宣言
11月5日	なかの区報掲載

提出された意見の概要及びそれに対する区の考え方

NO.	区民からの意見	区の考え方
1	ゼロカーボンシティ宣言は、国が行うことで不要である。	自治体としてもゼロカーボンシティを目指していくことが重要であると考えている。
2	<p>「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」と宣言しました。の後に以下の内容を追記して欲しい。</p> <p>○追記内容 <u>現在、地球の平均気温は産業革命前から約1.09度（陸域は約+1.59度）上昇し、IPCCの最新の報告では2030年までに1.5度前後地球の平均気温が上昇することは避けるのが非常に難しい状況であることが示されました。しかし、今すぐ行動を開始すれば、さらなる気候変動による被害を避けることができます。</u> また、最終行を以下の内容に修正して欲しい。</p> <p>○修正内容 そして、「中野区ゼロカーボンシティ」をここに宣言し、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すと同時に、<u>2030年までの9年間で集中的に二酸化炭素排出対策を実施してまいります。</u></p>	本宣言では2050年にゼロカーボンを目指すということを目標としており、2030年度までの区の取り組みは、環境基本計画に定めていることから、宣言文の修正は行わない。

NO.	区民からの意見	区の考え方
3	<p>IPCCの最新の報告（第6次評価報告書の政策決定者向け要約）を引用することで、ゼロカーボンを目指すことの必要性が明確になる。</p> <p>また、宣言文が受け身の印象があり、区民や事業者が自身の問題として受けとめにくい。</p> <p>以上のことから「中野区においても気候変動リスクへの緩和・適応にかかる対策等が「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進につながるよう、二酸化炭素排出量の削減及び環境、経済、社会の統合的向上を目指していく必要があります。」を、以下の内容に修正して欲しい。</p> <p>○修正内容</p> <p>「2021年8月に公表されたIPCC第6次評価報告書では、人間の影響が地球を温暖化させてきたことには疑う余地がないこと、世界の平均気温が産業革命前と比較して既に1.1℃上昇していることが示されました。地球温暖化は私たちが起こした問題であり、私たちの意思と行動で乗り越えられる問題です。</p> <p>中野区においても脱炭素社会を強く推進し、環境、経済、社会の統合的向上を目指していく必要があります。」</p>	<p>本宣言は、IPCC第6次評価報告書（政策決定者向け要約）の内容もふまえた上で区のゼロカーボンを推進していくものである。</p> <p>当該報告書は、IPCC総会での議論を踏まえた編集作業等を経て、令和3年12月頃に公表される予定のため、本宣言文には記載していない。</p> <p>世界の環境を取り巻く状況を認識したうえで、区の取り組みを宣言しているものである。</p>
4	<p>世界全体でゼロカーボンシティ宣言を行う自治体が増えていく中、区がその仲間入りを果たし、気候危機に意欲的に取り組む姿勢を打ち出したことを誇らしく思う。</p> <p>区が、区民、区内企業とともに如何にして2050年の排出ゼロ、そして2030年のカーボンハーフを実現するか期待している。</p> <p>今回、区が宣言することを決めたことに感謝したい。</p>	

中野区ゼロカーボンシティ宣言

～2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して～

近年、地球温暖化の影響による豪雨災害やこれまでにない規模の台風が発生し、日本各地で大きな被害をもたらしています。こうした地球温暖化に伴う気候変動の影響は、日本のみならず、世界中で注目される深刻な問題と認識されるようになりました。2015年に合意されたパリ協定では、世界の平均気温の上昇を産業革命前と比較して、2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求することが定められ、国は、2020年10月に「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」と宣言しました。

中野区においても気候変動リスクへの緩和・適応にかかる対策等が「持続可能な開発目標(SDGs)」の推進につながるよう、二酸化炭素排出量の削減及び環境、経済、社会の統合的向上を目指していく必要があります。

中野区は、2011年に中野区地球温暖化防止条例を制定し、区、区民、事業者の地球温暖化の防止に関する責務を明らかにするとともに、地球温暖化防止対策を推進するための措置を講じてきました。今後は持続可能なまちを次世代に引き継いでいくため、区民、事業者との連携・協働のもと、脱炭素社会の推進と気候変動への適応の課題についての取組を加速させていきます。そして、「中野区ゼロカーボンシティ」をここに宣言し、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指してまいります。

令和3年(2021年) 月 日

中野区